めだか大学通信11号

2013・１・5　　岡田京子

　みなさん お元気でしたか。新しい年になりました。どんなお正月を過ごされたでしょうか。昨年暮れの「めだか大学クリスマス交流会」はほんとによかったですね。その時にお願いした感想文のこと、覚えていますか。何でもやっただけではどんどん忘れて積み重ねにはなりませんので、それぞれに書いていただくことを今回もお願いします。まず、中村由紀男さんと京子さん､稲川惠子さん・柴田鉄世さんが送ってくださったのでこの号にはそれを掲載します。その都度、話し合いの材料にして活用して行きたいものです。

「めだか大学クリスマス交流会を終えて」

中村　京子

＜１部＞

　みんな自分らしい表現で、とっても ” いい顔 ” をして歌っていたのが特に印象に残りました。歌う前まではだいたいの人が自信なさそうにすごすごと出ていくのですが、なぜか、曲の頭の音が鳴りだすと表情が変わるんです。

　その人なりの ” 声 ” とその人しかできない表現が出てきて、…私は１人１人の演奏に魅せられ、６月３０日とはまた違った感動がありました。

　そして、私にとっては、１曲１曲それぞれが感じ方も違いました。

ある曲は自分の詞に替えて歌ってみたいと思ったし、ある曲には胸がドキドキしてしまう。ある曲のあるフレーズに涙が出てきたり、ある曲にワクワクして気がついたら心もからだも解放されたり、ある曲はなぜかわからないけど腹の底にドーンときたり、などなど、それぞれの曲に自分のからだの反応が違いました。これって、生命記憶？なのかな。

＜２部＞

　岡田さんの「生命記憶」のお話は、興味深いものでした。自分の音を探し始めた私にとっては、分からない所もありましたがうなずける所も多かったです。

　特に、「今、自分と向き合うことによって、呼び覚まされる音がある。」との言葉は、ストンとからだに入ってきました。

「音は、根源的なもの、深いもの、大事なものははずさないように。」とのことは、心に刻まれました。これからも、こういう方向で、自分の音探しをしていこうと思います。「自分のことを自分で歌う」、これが次世代に継承されていくのですね。

　まだまだいろいろと感想はあるのですが、まとまっていないのでとりあえず送ります。

中村　由紀男

　初回から半年も立たないうちに開けて、これは素晴らしいことですね。みなさんがその後も人生を深めてらっしゃる様子が見えたような気がします。自らを振り返って詩をつくり、からだ深くに眠っている音を引き出してできた歌はすべて、共感を呼び起こします。

　そしてまた、それぞれがその人にしか作れないものであり、日本人として共通の土台の上に立つ、違ったものなのです。家族のことを歌ったもの、歴史を振り返って現在を問うもの、日常や希望を歌うもの、みんな共感してみんなで歌ったこともよかったですね。

　交流会での岡田さんの講義、「生命記憶」のお話、興味深く聴きました。私たちにとって、なぜ民謡音階が大事なのか、それは私たちのからだ中に生命記憶が宿っているから。生命記憶とは何か、医学博士で解剖学教授で芸大教授でもあった三木茂夫氏の著書「胎児の世界」から、その理論をわかりやすく説明してもらえました。

　受胎してからおよそ７０日間に、生命の過去１億年のドラマが見られるんですね、驚き！振動／波動が生命にとって大きな意味があるというのも、面白いですね。音楽では、リズムだけでなく、音程も振動数ですもんね。

　僕は加えて思うんですが、生まれてくるまでの生命記憶だけでなく、生まれてからの経験や環境による影響も大きいと思います。

　例えば、言語です。ネイティブって言葉がありますが、あれは“何人”で決まるのではなく、どこで育ったかによって決まりますよね。日本人であっても、アメリカで育てば英語がその人の母語になります。

　音楽の世界ではどうでしょうか？　民謡音階は確かに私たちのからだ深くに宿ってますが、生まれてから得た様々な音階もまたある程度染み渡っているような気がします。
それらもだんだん、生命記憶として引き継がれていくのでしょうか？

　まだまだ興味は尽きません。
でもまず、抑えられてきた民謡音階を自分の表面に引き出すのが先決です。
アイデンティティを見失わず、新たな発展のために。

稲川　惠子

　まず思ったことは、一同に会することはとても大事だし、確実に力になるなぁということです。やってみると、もう少しずつ時間があったら、ちょっと練習をしてもう一度歌うくらいまでしたくなりました。

　特に私にとっては初めてだった、にんじん畑の「啄木」や千賀子さんの「石巻」などは。短歌ということで、言葉をかみしめるのに時間が必要だったのかもしれません。またやりたいです。

　一番感じたのは、やはりみんなの声がすごく、すごくいいなぁと思ったことです。船岡さん、柴田さん、小池さん、斉藤さんなど、どちらかといえば歌はあんまり得意とは思っていない人たちが、ある程度歌いこんで（何度も何度も歌って）、自分に納得して安心して歌う時、本当にいい声になるのですね。
こんな声を聴き合えることのなんと幸せなこと！
渡辺ミヨ子さんも（上手ですが）いろりの赤い火とはまた違う、すごくいい声でした。

運営の面では、今回はつくり小屋が中心になっての開催でした。会場作りなどまだ慣れてなくてバタバタしましたが、形が出来れば次回からは楽かなと思います。
当日の準備は村上さんを中心に小関さんや小池さん等のチームワークで助かりました。
歌集作りは、やはりそれなりに時間が必要で、今回も三宅さんに大変お世話になりました。
印刷他の作業は三宅さん、小池さん、山田さん、そして急遽駆けつけてくださった北海道組にもありがとうです。
今後は校正、編集、印刷作業等、もう少し余裕と人手の準備をしなくてはと思います。体調の思わしくない三宅さんに負担をかけてしまいました。

☆12月25日 ハムケうたう会のこと
毎月第四火曜日の午後に、玉川上水のステッチで行われるハムケうたう会はファリョンさん、岡田さん、そして猪俣さんが企画してされています。毎回たくさんの参加者と充実した内容に頭が下がります。
今回は「私たちのアリラン」特集でした。この歌もファリョンさんの作品ですが、9月くらいから「みんなもこのアリランに自分の歌詞を考えて」という宿題がファリョンさんから出され、つくり小屋メンバーも三宅さん、由紀男さん、山田さん、今井さん、坦さん、稲川そして岡田さんと安達さんも作りました。（三宅さんと私は、シンプルでありながら哀愁をおびたアリランのメロディに引き出され、16曲ずつ出しましたが、まだ出そうです。）そして膨大な作品集（素敵な歌集です）になり、この日、全部はとても出来ませんでした。
うた小屋ででも、一度みんなのをじっくり聴きたいなぁとも思いました。
安達さんがゲストで駆けつけてくれて、「わが大地の歌」を初めての方たちも大好きになって何度も歌い、ピアノも楽しみました。

この二日間を通して改めて思ったことは、気持は音を求めているのだなぁということです。また歌にして（音がついて）初めて表すことのできる気持というものがあるなぁとも感じました。アリラン歌集の中に、自分と同じ気持ちを詩にした知らない方の歌を見つけるのは面白かったです。
遅ればせながら、北田耕也氏の本から読み始めています。では1月6日つくり小屋で。

柴田　鉄世
私が、めだか大学クリスマス交流会に参加しての感想を書いてみます。
まず１部での、皆さんの作られた歌の中での感想です。小須田さんの小海小学校は、『みんなで・・・』からの所を、みんなで歌うと、本当に自分の小学校時代に戻ったような、なつかしい感じがする歌詞とメロディーだと思います。
渡辺さんの『ホームカフェ』は、渡辺さんのところのカフェだけでなく、自分達のまちでも行われているお年寄のサロンや子育てサロンなどいろんな所での居場所で歌ってもよい歌だと感じました。
中村さんご夫婦の歌は、それぞれ子どもさんを思う気持ちがよく現れた歌だと思います。
三宅さんの『国民学校の歌』は、もう、こんな戦争は、二度としない、こりごりだという

気持ちの現れた歌だと思います。老人ホームなど当時のことを知っている人達などに、歌ってもらったりすればと思いました。
　私の『あなたへ』の曲は、岡田さんに、良いメロディーと言っていただいてうれしかったです。みんなで、歌っていただいて大変感謝しています。
　小池さんの『お父さんに』の歌は、歌詞も、メロディーも、大変じーんと心に響くものがあり、大変よかったと思います。
　山田さんの４曲は、本当に、長い年月を経た、重みのある歌詞、そしてメロディーで、１つの物語になると思いました。
　斉藤さんの『みんないっしょだからね』は、いろんな人達に共通に、共鳴できる歌だと感じました。
　山本さんの『ふるさと』の詩も、ふるさとを「いてはならなかったところ」というつらさ、せつなさを体験している方もあるという戦争の悲惨さ、二度と繰り返してはならないということを、曲をつけて、多くの人に歌っていただきたい詩だと思いました。

　２部は、みんなの歌に共振、共鳴するということは、統一劇場の芝居の多くの作品も、観客に、共鳴する内容が多くあったことを思い出しました。
　岡田さんの言われた生命記憶についての三木茂夫さんの『胎児の世界』を読んでみたくなりました。私も前に、テレビでやっていた植物も話しかければ、反応があるということをやっていたことを思い出し、生命記憶について、もっといろいろ調べてみたくなりました。
　言葉のアクセントが、上がると上の音、下がると下の音になるなど、自分も、これから、いろんな歌を作ってみたくなりました。身近な歌、この世の中のみんなの暮らしをよくするための歌など、挑戦したいと思います。つくり小屋へも、東京は、遠いですが、できる範囲で、また参加させていただきたいと思います。